



1. 12月4日(月)～10日(日)は人権週間です。

枚方市では、差別せず、一人ひとりを大切にしたい、共に生きる社会の実現をめざし、人権についてさまざまな角度から考える機会として、関係団体と協力したイベントが実施される予定です。その一つとして、令和5年(2023年)12月6日(水)枚方市総合文化芸術センター 関西医大 小ホールにて、ナターシャ・グジーさんによるコンサート～水晶の歌声とバンドゥーラの可憐な響き～が行われます。ナターシャ・グジーさんは、ウクライナ生まれで、6歳のとき、1986年4月26日未明に父親が勤務していたチェルノブイリ原発で爆発事故が発生し、原発からわずか3.5キロで被曝しました。その後、避難生活で各地を転々とし、キエフ市に移住しながら、ウクライナの民族楽器バンドゥーラの音色に魅せられ、8歳の頃より音楽学校で専門課程に学びました。1996年・98年救援団体の招きで民族楽団のメンバーとして2度来日し、全国で救援公演を行いました。2000年より日本語学校で学びながら日本での本格的な音楽活動を開始。2005年7月、ウクライナ大統領訪日の際、首相官邸での夕食会に招待され、演奏を披露。2016年7月、これまでの活動が評価され、外務大臣表彰を受けました。コンサート、ライブ活動に加え、音楽教室、学校での国際理解教室やテレビ・ラジオなど多方面で活躍しており、その活動は教科書にも取り上げられています。

2. 2学期が今月で終了します。

実りの多かった2学期が今月で終了します。4月に入学した1年生もすっかり中学校生活に慣れ、学校全体で取り組む学校行事での上級生の姿を見ながら、中学生が行動すべき姿を学んでくれたと思います。また、2学期は、生徒会活動、部活動など学校生活で中心となって活動してきた3年生から1、2年生へ、その役割が引き継がれていく時でもありました。3年生は下級生にこれまでのより良い学校を築こうとしてきた活動を引き継いでいく時であり、2年生は、自分たちがこれまで3年生の姿から学んできたことを受け止め、これから自分たちが引き継ぐ決意を表明する時でもありました。そして、3年生は、中学校を卒業後に進む自分の進路の希望先を決め、自分の力を発揮するために全力で学習に励んでいます。これまで以上に一人ひとりが自分と向き合っていくことになります。その時、周りには、家族、仲間、先生がいることを支えに、自分の力を最大限発揮して欲しいと思います。

3. 植物(落ち葉)の役割

紅葉の季節も終わりを迎え、春から夏にかけて青々と緑を茂らせてきた植物が冬を間近にその活動を休もうとしています。東京大学日光植物園の館野正樹園長によると、「植物は光合成によって作られた炭水化物で成長しており、葉が十分に成長してくる夏は光合成で栄養を取り込む書き入れ時で、葉は太陽の光を浴びてエネルギーである炭水化物を樹木のために供給し続けます。季節が秋になり日照時間が減ると、光合成で作られる栄養も徐々に減少し、寒くなって樹木の中の水を通す導管が凍ることで水が流れにくくなる、いわゆる“エンボリズム”を警戒することにより葉っぱを落としている。」とのこと。葉が落ちる前に変色するのは栄養分を吸い取られた証拠であり、植物は、葉と枝の境界に離層という壁を作って、不要となった葉を切り離し落としているそうです。紅葉の季節には、植物もその美しさで一時的に楽しませてくれましたが、地面に降る落ち葉は一転、雨樋(あまどい)や排水溝を詰まらせたり、舗装された通路を汚すじまもの扱いとなっています。しかし、自然界の落ち葉は、地面に降り積もり、細菌やカビ、さまざまな動物などによって分解され、水分と空気を多く含み、養分に富んだ豊かな土になります。もう一度、植物(落ち葉)の役割について考えてみたいと思いました。